

# 東っ子「教育アンケート」 の結果から (29-1 学期)

H29・9・7

東小学校 PTA 会員 様

伊豆市立修善寺東小学校  
校長 橋川 清美

1学期末「学校評価アンケート」へのご協力、ありがとうございました。本年度より、アンケート内容を整理して作成し直しました。市内統一項目、修善寺地区共通項目、本校独自の質問～各領域にわたって質問させていただきました。

集計結果から本校児童の到達点と課題を明らかにして、今後の教育活動の中で課題を解決していくためにどのような改善等が必要になってくるか、考察しました。

保護者のみなさんから自由記述でお書きいただいた「ご意見」に対する学校としての立場や考え方も付けさせていただきましたので合わせてお読みください。

**1 「あてはまる」(1の回答)「まあまああてはまる」(2の回答)の評価～いわゆる高評価～が、合わせて90%を超えた項目は、9項目ありました。**

その中でも(1)の数字が(2)よりも上回った項目(より高評価だったもの)は、

- < 4 >地域が学校を支援する活動が活発である
- < 5 >お子さんは学校生活を楽んでいる
- < 11 >お子さんは登下校時の歩き方や自転車の乗り方等、交通安全に気をつけている
- < 15 >お子さんは決められた家庭学習を行うことができている
- < 24 >東小は、保護者の協力を得て、読み聞かせや図書館整備の活動に力を入れている

でした。CS(コミュニティスクール)の取り組み(サポーターのみなさんの献身的な環境整備の活動、地域の方々、畑の先生として子どもたちの学習を支えてくださっている方、等)や東小において伝統的に引き継がれてきた図書ボランティア、PTA 会員の皆様による読み聞かせ活動の積み重ねは、子どもたちの成長にとって極めて大きな役割を果たしていると思います。

また、<5><11><15>は、自分の命を守り、基本的な生活・学習習慣を身に付けて生活できていることを表している数字であるにとらえられ、これもご家庭の様々なご協力、ご支援の賜物であると考えます。

(1)より(2)の評価の方が数字が大きい項目(<17>友達と協力して学習に取り組む <18>授業内容がわかっている <23>参観会や懇談、面談等の日程 <25>安全、防災、不審者対応の訓練や体制 の4項目)については、まだまだ改善の余地があるにとらえ、今後の課題として具体策を講じていきたいと考えます。



**2 (3) あまりあてはまらない (4) 全くあてはまらない の回答の合計数値が大きかった(20%以上)項目 ~ 子どもたちが十分にできていない、これからの課題だと考えられる評価の低い項目 ~は、4項目ありました。**

評価が低かったのは、

- < 8 >TV やゲーム、インターネット等は、家族との約束を守ってやっている
- < 9 >お子さんは、整理整頓、片付けができています
- < 20 >お子さんは、本に親しみ、家でも読書する習慣が付いている
- < 22 >お子さんは、むずかしいことにも失敗を恐れず挑戦している

の4項目です。これらの項目は、昨年度までの質問でも同様の傾向が出ていました。<8>について、子どもたちは「できている」(1,2)と答えている割合は高くなっていますが、大人の目から見るとそうは言えないと評価に大きな差が認められる項目です。子どもたちの生活の中でゲームやインターネット(YouTubeなど)の利用が増えているのは、社会一般に言える傾向だと思います。子どもたちの会話からもそういう話題が聞こえてきます。家族が帰ってこない時間帯の利用も多いのかなと感じています。正しい利用、安全に気をつけての活用も含めて、「生活はなまるカード」実施期間もうまく活用しながら改善できるように考えていきたいと思っています。 <9><20>については、保護者のみなさんからすると、もう少しできてほしいという希望が結果に反映されていると思います。 <22>は新しい質問ですが、近年の子どもたち全般に言えることかもしれません。どうしても結果を気にしすぎてしまったり、失敗という結果が出ることを心配したり、困難を避けたがってしまったりする子が見られることを危惧しての数字かと考えられます。(6年生の学力・学習状況調査でも同様の結果が表れています。)一つ一つの取り組みを通じて、子どもたちを励まし続け、成功体験を積み重ねていく中で、子どもたちに自信を付けさせていくことが求められていると思います。

**3 子どもの評価と大人(保護者、職員)の評価の差が大きいものがある。**

子どもの自己評価の結果、全25項目中23項目で80%以上(90%以上も14項目)の数字が出ています。「自分たちはほとんどのことができている、守れている、がんばっている…」と表していることを表しています。一方、大人(保護者、職員)の評価には、より高いものを求める傾向があり、大きな差が認められることです。「もっと良くなってほしい、がんばれる…」という期待が要求基準となり、もう少し改善の余地があるのではないかと感じているということです。

「子どもの評価数字 > 大人の評価数字」の乖離が顕著な項目(差が20ポイント以上)は、

- < 8 >TV やゲーム、インターネット等は、家族との約束を守ってやっている
- < 9 >お子さんは、整理整頓、片付けができています
- < 20 >お子さんは、本に親しみ、家でも読書する習慣が付いている でした。

昨年度までの質問でも同様の結果が出ていました。 <9>については、学校での限られた自分の持ち分と家庭で自分の担当する部分では、範囲が広いということが数字に表れているのではないかと考えられます。 <20>の読書についても、学校では、読書好きな子どもを育成するための様々な取り組みが行われ、時間もそれなりに使いながら読書指導を行っているため、子どもたちは、「読んでいる」と答える子が多くなっていると考えられます。一方、家庭に帰ってからは、どうしても時間的な余裕が少なく、(他の宿題や習い事、手伝い等)読書がなかなかできないことから、大人の目からすると、物足りない様子が感じられるのだと思います。「生活はなまるカード」の取り組みやノ



ーメディアデーや週末の読書の勧めなど、これからも家族そろっての読書タイムの設定など、家族ぐるみの実践に力を入れるなどの取り組みを強化していきたいと思ひます。

#### 4 自分に自信をもつ ～ 自己肯定感を向上させること

すでにご案内の通り、今年からアンケートの内容を変更（修正、整理）して実施しました。そして、＜1＞～＜5＞の項目は、伊豆市内全小中学校で統一した項目に、＜6＞の項目については、修善寺地区の小中学校の統一質問項目となっています。これらの項目の集計と地区全体としての傾向分析等はこれからの作業となりますが、「速報値」から本校の子どもたちの特徴が一つ見えてきました。それは、自己肯定感がやや低い、ということです。＜6＞の質問項目「自分にはよいところがあると思う」についての回答を見てみると、

(1) そう思う（ある）・・・36.4%

(2) まあまあある・・・37.3%

(3) あまりない・・・15.5%

(4) ないと思う・・・10.9%

でした。学年が上がるにつれて、(1)が少しずつ減り、(2)が多くなるという傾向は他校にも見られ、「ちょっと控えめな評価」(照れくさい)をしがちなところはあると思ひます。本校では、(4)の回答が少し多いように思ひます。もちろん人間ですから、いろいろ足りないなあと実感するところはある、それが向上心につながる面ももちろんあるでしょうが、やはり、自分のいいところはこれだ、と言える部分をもってほしいと感じました。「できていないところはあるけれど、がんばっている」自分を認めることで、質問項目＜5＞「学校生活を楽しんでいる」の中身が充実してくるのだと思ひます。今後の課題として、記しておきたいと思ひます



#### 5 29年度「後半」の取り組みの中で改善していくこと

今回のアンケート結果についての考察をお届けしました。項目の評価と共に、学校への率直なご意見・ご提案もいただき感謝申し上げます。

アンケートの項目一つ一つの数字の評価について多くを述べませんでした。全体の傾向を示すものとして、客観的なデータとなると思ひます。この数字から読み取れる、本校でこれから取り組んでいくべきことが見えてくるように思ひます。改善できるところは2学期の活動や生活の中でさっそく取り組んでいきたいと思ひます。また、「ご意見・ご提案」につきましても、後半部分に掲載させていただきました。これについてもできるところから改善し、今後検討する必要があるものについては、来年度の教育課程編成の際に参考とさせていただきます。

\*この「1学期学校評価(保護者アンケート)のまとめ」についてご意見等がありましたら、学校へお問い合わせください。

修善寺東小学校 72-0420  
担当・文責 岩代 孝一

※保護者の皆様から自由記述していただいたご意見、ご提言に対して、学校としての考え方等を書かせていただきました。率直なご意見をありがとうございました。すぐに対応できることについては、対処します。学校へのご要望・ご意見につきましては、今後の検討課題とさせていただきます。

NO.	保護者の方からのご意見
1	<p>参観会や面談、プール監視等仕事を休んで参加することが多くある。リレー会を見に行きたい気持ちがあっても今以上に休めない。同じ日に開催できるものはまとめてもらえるとありがたい。学校の事情もあるかと思うが、・・・。</p>
	<p>毎年の行事計画立案や配分は、学校評価・年度の反省にもとづいて子どもたちの現状を把握し、課題を明らかにすることによって、東小の子どもたちにはどんな力を付けさせることが求められているか、そのためにはどんな活動や行事等を編成していく必要があるかを検討し決めていきます。子どもたちへの負担が過重にならないように日程を調整することも必要になります。保護者の皆様には、様々な配慮をしていただきつつ、学校の行事等を参観していただき、感謝申し上げます。来年度の活動計画立案に当たっても、子どもたちへの負担を考慮しつつ、そういった保護者の皆様のご要望にも応えられるように配慮していきたいと思えます。</p>
2	<p>110人の小規模学校で、3色6グループの縦割り構成は多すぎると思う。2年生は特に少ないのでグループに1人の場合もある。2色4グループが妥当だと思う。説明を、検討を。</p>
	<p>縦割りグループ編成につきましては、昨年度の学校評価の際にもご意見をいただきまして、今後の検討課題とさせていただくことを説明させていただきました。また、教育課程(計画)編成(作成)のための研修でも協議しましたが、本年度については従来通りで進めることを確認しました。今後の児童数の減少に伴って検討していくこととなりますが、当面は100名を維持する見込みであり、リレー会や縦割り活動の様子から判断しても、3色6グループ編成が基本となっていくと思えます。</p>
3	<p>体験学習を増やしてほしい。「英語」も日常的に親しめるようにしてほしい。マンネリ化が見られるので、毎日の「がんばりカード」にも工夫がほしい。</p>
	<p>学習の目標を達成し、確かな学力を付けていくために、日々の、1時間ごとの授業展開を工夫し、わかりやすい授業となるように努力しています。子どもたちも「この時間でこんなことがわかった」「こんなことができるようになった」と実感できるようにがんばっています。各時間の授業の中で、より理解を確かなものにしたり、学習効果を上げたりするために「体験活動」を位置づけます。子どもたちが身をもって体験したことは印象に残り、知識の定着に役立つと思えます。体験活動には様々なレベルがあり、いろいろな体験活動を組み合わせ、校外学習も含め、計画的に実施していきたいと思えます。</p> <p>「英語」学習については、現在は5・6年生で週に1時間(年間で35時間)、1～4年生で年間8時間程度、外国語でのコミュニケーション活動を中心に、外国語に慣れ、親しむことを重視して学習しています。学習指導要領の改訂により、平成32年度からは、5・6年生で週2時間、英語として実施されるようになります。教科書を使い、書くことも含めての学習活動となり、通知表での評価も行われるようになります。また、3・4年生も外国語活動として週1時間、時間割に位置づけられて実施されます。(1・2年生は従来通りの外国語活動を年間8時間程度行う予定。) 来年度から「移行期間」として本格実施に向けての取り組みが始まります。(5・6年生＝＋15で年間50時間。34年生＝15時間)を実施していくことが通知されました。「家庭学習ががんばりカード」の工夫については引き続き努めますが、「愚直に継続」することで力が付けられることも多くあると思えますので、ご理解をお願いします。</p>
4	<p>教室の温度が高いと感じたので、扇風機をつけた方がよい。朝運動を休む(見学する)と、休み時間遊べないという。朝運動と休み時間は別と考えてほしい。</p>

	<p>各教室には、壁掛けタイプのものが2台、教室後方には大型扇風機が2台配置されています。一部特別教室にはエアコンも設置され、暑い中でも学習効果が上がるように努めているところで、引き続き、各教室へのエアコンの設置につきましては、市への予算化の要求を出していきたいと思ひます。</p> <p>体調がすぐれないときには、運動や外遊びを控えて休養することで、体調の回復に努めさせることを基本に指導しています。従って、そのような体調の時には、無理をせず休み時間も外遊びをしないで、室内で静かに過ごさせるようにする(朝運動をしない=体育は見学=休み時間も教室で静かに過ごす)という従来の立場を継続したいと思ひますので、ご理解ください。</p>
5	<p>水泳帽の色(5年の水色)が水中で目立たなかった。事故発見の遅れにもつながるので、色の変更を考えてほしい。</p>
	<p>体育の授業や夏休みのプール開放の時に見ていますが、ご指摘は初めてです。確かに、今年プールの塗装をしましたので、より水色がはっきりしたこともあるのか、見えにくいということもあるかもしれません。水着や身体はしっかり見えており、あと1年間で使用も終わりになりますので、現5年生につきましてはそのまま使っただき、(もちろん、安全の確保に十分な注意を払います。)次の1年生(31年度入学生)の時に変更の検討をして決定していきたいと思ひます。</p>
6	<p>リレー会で高学年は1周走ってもよい。</p>
	<p>高学年の走力の優れている子供には、半周は短いということもあるかもしれませんが、各学年とも個人差があります。ふだんの体育指導の様子等から判断して、1人半周としています。実態を考慮すると「高学年1周」はむずかしいと思ひますが、例えば、「(5)6年生は1周」ということが可能かどうか、体育指導部を中心に検討させていただきます。</p>
7	<p>家庭科の授業にボランティアの手伝いを依頼されて今回は行けなかったが、保護者で手伝えることがあれば今後も募集してほしい。(体力テストの手伝い等)</p>
	<p>ありがたいお申し出に感謝します。様々な学校の教育活動(環境整備、図書ボランティア等)に対して、多くのご協力をいただいているところですが、授業への学習ボランティアは、なかなか実現しなかったものです。今回5年生の家庭科実習で、針の使い方、動かし方などを見ていただくことによって、子どもたちは集中して取り組んだことが報告されています。担任はもちろんのこと、学校としても本当に感謝しています。今後も、できるだけ早く計画をお知らせし、多くの方にご参加していただけるようにしたいと思ひます。よろしくお祈りします。</p>
8	<p>大平地区の子どもたちは、バス通学になっている。距離的には田代地区の方が遠い。6年間を考えると体力的にも大きな違いが出ると思われる。安全面も問題ないので、すべての地区で徒歩通学にしてほしい。</p>
	<p>市の規定によって、通学距離が2kmを超え、通学時にバスの運行がされている路線を利用する場合は、一律にバス代補助措置がされることになっています。従って、本校では大平地区が該当ということになります。(田代地区は、通学時間帯に該当バス運行がされていない。また、学校に向かう路線がなく、途中まででは距離が足りないのが該当しない。)希望によって徒歩通学をすることは可能かと思ひますが、同じ地区の子どもたちは一緒に登校するというのが、教育上は現実的だと思ひます。現状の通り、ということをお願いしたいと思ひます。</p>
9	<p>ベルマーク収集活動に取り組んでほしい。(家にたくさんあるので。) エコキャップの回収はしないか。</p>
	<p>ベルマーク収集活動に取り組むためには、それを担当する委員会が必要になると思ひますが、本校の規模では、これ以上の委員会を増やすことは無理です。(過去、実施していた学校がその後取りやめた理由は、やはり担当する子どもたちの負担が大きすぎたことにあるようです。) エコキャップ回収運動については、以前児童会で取り組んだこともありましたが、回収する上部団体との連絡がうまく取れず、若干のトラブルも発生したため、その後取り組みを中止しました。店舗等では実施しているところもありますので、各家庭の判断で協力するようお願いしたいと思ひます。</p>

10	<p>小規模校で(人数が少ないので)さみしいけれど、少ないからこそできることもあるのでいろいろな経験をしてほしい。例えば、「野菜の先生」等地域の方に教えてもらうなどして、立派な野菜がとれることをとても喜んでいる。</p>
<p>ありがとうございます。特色ある学校、本校ならではの教育活動が展開できるように、今後もいろいろと工夫し、考えながら計画、実践していきたいと思います。</p>	
11	<p>暗唱名人は、記憶力・集中力(を養い)、詩のおもしろさを感じるなど役立っていると思う。百人一首を学年順に覚える数を増やしていくようなことも提案したい。また、学年ごとに内容を変えて、前の学年で覚えたものに新しい学年のものを加えていくのもどうか。覚える数は増えるが、新たに増えるものは少ない(ので負担は大きくない)。今記憶力を鍛えるのもいいと思う。金子みすずなどの作品も入れていくと楽しみが増えると思う。</p>
<p>貴重なご提言、ありがとうございます。暗唱名人については、学年末に各学年から推薦された作品を検討し、「今年の暗唱名人」として選定しています。いろいろな作品に当たって、各学年の子どもたちにふさわしいか検討しています。ご意見も来年度選定の参考とさせていただきます。</p>	
12	<p>トイレの鍵が硬くて開け閉めが低学年の子にはむずかしく、学校でのトイレを我慢して帰ってくるがあった。改善してほしい。</p>
<p>学校の施設設備の点検については、月1回の定期安全点検を行い、不具合を認知した場合には、迅速に改善するように努めています。また、通常の生活の中でも職員や子どもたちから指摘があった場合もすぐに対処するようにしています。ご指摘の箇所についてもすぐに対応させていただきました。他にもお気づきの点があればいつでも連絡いただきたいと思います。</p>	
13	<p>夏の日差しが強いので、ブランコ周辺にも木陰ができれば、休憩もでき、遊具も熱くならないで済む。</p>
<p>強い日差しを避けて熱中症対策をすることは、1学期も、これから始まる運動会に向けての練習期間においても、とても大切です。昼の連絡でも毎日「熱中症情報」を提供して、木陰での休息や水分補給を呼びかけています。そういった状況を考えると、樹木を植えて木陰を作ることとはとてもいいアイデアだと思います。が、何分木陰ができるまでには、それなりの時間も必要となり、費用の面でも考慮しなければいけない問題があります。現状では、今ある木陰を有効に使いつつ、遊具で遊ぶということになるかと思います。(ちなみに、樹木の剪定につきましては、コミュニティサポーターのみなさんが時折作業を行っていただき、良い樹木の状態を保ってもらっていることを申し添えておきます。)</p>	
14	<p>あいさつ指導に力を入れた方がよい。(あいさつ運動などで)その場でできていても、別の場所で臨機応変にはできていないので。</p>
<p>あいさつにつきましては、学校評価の項目にもなっており、数字として結果が出ています。「考察」の項でも説明してありますが、児童のアンケート回答と保護者・職員(大人)の見方とは、かなり数字的に大きな差があります。(A評価…児童51% 保護者30% 職員10%) またご指摘のように、決まり切った場面(朝、帰り等)ではできるが、臨機応変にあいさつする、いざというときに尻込みしてしまう、というような面もあるようです。児童会企画委員会の計画で行われるあいさつ運動でも週明け以外は元気よくあいさつする姿が見られます。不意のお客さんへの対応、昼間のあいさつ、地域の人の声かけに対する反応などがうまくできないということだと思います。学校、家庭、地域をあげてのあいさつの機運を盛り上げていくことが必要だと考えます。どんなことに力を入れていくと効果的なのか、考えていきたいと思います。</p>	
15	<p>悪天候で車で迎えに行く時の引き取りのしかたに改善が必要。校内放送で待機の声が聞こえたり、一斉に下りてきて車と同時に動き出して危険を感じたり、戸惑うことが多かった。円滑にできる方法を検討したい。地区ごとの部屋に待機させ、教室まで迎えに行くという方法はどうか。</p>

	<p>異常気象ということが、異常ではなく普通に起こるような「局地的で、記録的な大雨」は今後も増えそうです。緊急措置としての対応を学校でもとらなくてはいけない場面があるだろうと予想されます。子どもたちの引き取りをお願いした前回の措置について、対応に不備があったというご指摘、今後に向けて大きな反省材料としていきたいと思ひます。車の待機場所、車の動く方向の徹底、児童の退出順(地区の順番)の整理、迎えのない児童の対応、同地区の子どもたちを集団で連れて行ってもらう際の確認の方法、…等、うまく整理しながら、安全に確実に引き渡しができるように体制と手順を整理しておき、対応に当たりたいと考えます。地区ごとに待機場所を決めておき、(勝手に出てこないで)その教室へ迎えに来た方が引き取るというご提案の方法は効果的であると考え、28日の試行を踏まえて取り入れたいと思ひます。</p>
16	<p>外部の専門家を講師に招いて指導を受ける(授業)などしたらどうか。走り方や水泳などうまく「コツ」を教えてもらえれば、次からは、練習などのポイントもわかって効果が上がっていくと思ひます。</p>
	<p>現在でも、例えば、運動を指導する「アスリートに学ぶ」講師派遣といった取り組みは、県の事業としてあります。運動以外でも、外国の文化に触れる「国際理解」活動、静岡の茶文化を広める事業、優れた技能を持つ人に学ぶ事業等、専門家に学ぶ事業というのはあるのですが、多くは、抽選によるものが多く、なかなか当たらないということも現実にはあります。また、学校の行事との関係で、都合が付かないということもあります。ご指摘のように、専門家の指導は本能的に射えていて、効果がすぐに表れてきて感動し、さすがだなと思ひることが多くあります。広く情報にアンテナを高くして、そういう機会が持てるように努めたいと思ひます。</p>
17	<p>読み聞かせで(使う)本を購入しているが、要らなくなった本を寄付してもらい増やしたらどうか。そんな呼びかけもどうか。</p>
	<p>とても良いご提案だと思ひます。資源回収にも読まなくなった本が出されるのを見ることがありますが、要らなくなって、なおかつ、まだまだ状態も良いという本があれば、学校(図書室)の方へいただければと思ひます。月1回出されている「図書だより」に、新刊紹介(新しく購入した本の紹介)等をしてはいますが、その中に「要らなくなった本をお譲りください。」旨、載せるようにしたいと思ひます。随時、学校へお持ちいただいても結構です。よろしくお願ひします。</p>
18	<p>登校リーダーとして低学年の子に無理のないペースで歩いていると、「ペースが遅い」と抜かして歩いて行ってしまう子もいる。交通安全の上で(勝手な行動をしないように)注意してほしい。</p>
	<p>問題が報告された地区、通学グループにつきましては、その都度関係する地区・通学グループの子どもたちに招集をかけ、何が問題なのか、どういうことに気をつけて安全に登校すればいいのかが、ということ子どもたちにも考えさせ、話し合わせると共に、担当から指導しています。そういった表れがあればすぐに情報提供をお願いします。</p>
19	<p>学校で掲げている目標が多すぎて何を一番にしているかよくわからない。サブタイトルをなくすなり、文章を短くして子どもたちにわかりやすくしてほしい。</p>
	<p>ご指摘を受けて、子どもたちに提示している「目標」をあらためて見てみると、確かに多くの「目標」や「重点」「めあて」「約束」…といったものが、多く子どもたちに投げかけられていることに気付かされました。学校教育目標「よく学ぶ たくましく心やさしい 東っ子」から始まり、重点目標「いい目と心で 聞きます伝えます磨きます ～ 合言葉＝「進んで」～」…さらに期ごとの目標、月目標、生活のめあて、学習の目標、学級での自分のめあて、運動会等行事における各自の目標…。子どもたちが意識するのは、近くにある大きな行事に対するめあてでしょうか。今何を中心にがんばっていけばいいかを意識するように、朝の放送では、月目標を毎日伝えています。時期に合わせた力点を意識するためです。その時期学校全体が何かに向かって努力していくという一体感を創出するためには必要だと思ひます。月に一度の朝会では、学校長と生徒指導担当から講話があります。ここでは、学校教育目標や月目標にかかわる話をします。それを聞く中で、ふだん忘れがちな目標を子どもたちが意識できるようにしています。1年間の学校での学習や諸活動を通じて、成長していくために多くのことをがんばり、努力しているわけですが、子どもたちに進むべき方向を示し、励ますという意味での「目標」になります。子どもたちには、時期をとらえた目標の提示を通じて、わかりやすい指導を行っていきたくと思ひます。</p>

20	大雨の時のメール連絡が遅い。下校予定時刻より後にメールが来たのでは迎えに行ってしまう。判断がむずかしいだろうが、改善してほしい。
正確な情報の収集に基づいて的確な判断を行い、迅速な連絡(メール配信)を行うよう、努めていきたいと思ひます。	
21	6年生として委員会活動や縦割り活動などでいい経験をしている。壁にぶつかって大変な思いをすることもいいチャンスだと思う。
全校児童数110名と小規模な学校ですが、1年生から6年生までがいわゆる「家族」のような感覚を持って生活しています。上級生は、過去の先輩たちのやり方を学び、そこから自分たちの独自性も付け加えて新しい取り組みを生み出しています。下級生は、上級生の振る舞いや姿に憧れと尊敬の気持ちを抱きつつ、吸収していきます。こうして良い部分を東小の伝統として引き継いでいくのだと思ひます。高学年としての大変さはもちろんあるでしょうが、そこを乗り越えていくときに成長があるのだというこを思ひ、大人である教職員や家族、地域の方々支えていく必要があるだろうと思ひます。	
22	子どもたちだけで電車に乗ったりバスに乗ったりして社会科見学などをもっとたくさんしてほしい。初めての校外学習(班別行動)が修学旅行では、少し不安だった。
低学年の生活科や3年生以上の社会科見学、校外学習も行われますが、貸切バスを利用することが多いのは事実です。自分で切符を買って、料金を払って、時刻表を見て、…という体験は少ないと思ひます。(2年生の生活科校外学習で切符を買った経験はあるかもしれませんが。)また、家族で出かける際にも、その多くは自家用車を利用してのものだと思ひます。そういう意味では、子どもたちが公共交通機関を使った体験が少ないのは事実だと思ひます。今年の修学旅行では、そういった状況も踏まえて、地下鉄東京メトロを使った上野～浅草の、班別行動による移動を計画に組み込みました。自分たちで切符を買い、改札の方法を知り、方面を確認してホームを正しく選び、乗車するという体験を入れました。1人ではなかなかできないことも、ほどよい緊張感の中で、班のメンバーと協力し、相談し、行動することで、収穫はあったと思ひます。もちろん、引率の教職員が随所に配置され、つかず離れずに見守るという安全面での配慮もしました。ご理解いただきたいと思ひます。	
23	家庭教育学級を担当して6年の学年委員の負担は大きい。なかなかすんなり決まらない原因かも。また、家庭教育学級には、市から補助金が出ているのに、参加者が会員の1割程度でいいのかとも思ひます。
6年学年委員さんの負担は他学年のみなさんよりも多いのは事実だと思ひます。家庭教育学級の企画と準備、当日の運営…は、なかなか大変な労力を要します。今までの実績の蓄積はありますので、それらも参考にしつつ、学校担当職員とも連携して、負担感なく進められればいいのですが。会合の中で出された意見として、1回ごとの企画を学年(団)の役員さんが分担して担当する、という方法もあると思ひますので、今後の検討事項とさせていただきたいと思ひます。	

※貴重なご意見、ご提言、ありがとうございました。



(文責 岩代孝一)